

野菜（さつま、スイカ等）

3. 農作業期間

概ね（4月～11月）

4. 募集対象者

農業に関心のある方又は、農作業をしたい方（農作業経験は問いません。）

5. 参加費

NPO法人会員 2,000円

非会員 8,000円

6. 収穫物の受け取り目安

原則、年間白米10kg（収穫量により変動があります。）

その他の作物は、適宜配布いたします。

7. 申込み方法

メール：toiawase@nou-mirai.org

又は

Fax：04-313-3620

（住所、氏名、性別、年齢をお書きの上、お申し込み下さい。折り返し、参加費の振り込み用紙をお送りします。）

8. 運営主体

NPO法人農の未来ネット



「みらい体験農場」農場長

一之瀬 今朝一副理事長
（愛称おらっち）

★2月

種籾の調整（コシヒカリ、彩のかがやき、ミルキークイーン、古代米）

★3月

上旬～中旬 トラクター（ロータリー）で耕耘

下旬 種籾の再調整

★4月

上旬 種籾を水（消毒）に漬ける 育苗ビニールトンネルの整備

中旬～下旬 苗箱に播種し育苗ビニールトンネルで育苗

★5月

中旬～下旬 田植え作業 クロ塗り・施肥・代掻き・田植え等

★6月

上旬 田植え作業 補植・田植機及び耕耘機の掃除

★7月～8月

畦の草取り

★9月

上旬 乾燥機の掃除 来年の種籾用の刈り取り・ハゼかけ

中旬～下旬 稲刈り・乾燥・籾摺り

★10月

上旬 稲刈り・乾燥・籾摺り

中旬～下旬 精米・配布

特に人手の必要な作業は、4月下旬の苗箱に播種等、5月中旬からの田植え作業、7月からの畦の草取り、9月中旬からの稲

刈り、10月中旬からの精米・配布です。

その他、畑作物として、じゃがいも、さつまいも及び試験的に蔓物や葉物を栽培し、収穫物を持ち帰りしていただくことを計画したいと思います。

なお、じゃがいもは3月中旬に植え付け7月上旬に収穫、さつまいもは5月下旬に植え付け10月下旬に収穫したいと思います。

「わたしの納豆」を 定期販売！！

食農研センター
ワーカーズフェア・ビンデン

当NPOの事業の一つである「わたしの納豆」は、茨城県産中粒大豆を使用しています（1カップ50g：70円）。「わたしの納豆」をPR販売しているのは、国産素材95%達成の「お母さんにおまかせ弁当」やオードブルで人気のNPO法人食農研センター ワーカーズ フェア・ビンデン（写真）。最近、みなさんの納豆の好みが小粒大豆から、昔なが

らの中粒大豆納豆に嗜好が傾いているようです。中粒大豆には、大豆本来の味わいとふっくら感があるからでしょうね。

中粒大豆の納豆は最高です！！

お近くにお出掛けの際は、是非ともお買い求め下さい。



★フェアビンデンのお店(写真:緑提灯が目印)





編集後記

TPP（環太平洋経済連携協定）交渉への参加をめぐって日米の事前協議が2月7日にワシントンで始まりました。朝日新聞（2月9日付）の報道によると、日本の外務省や経済産業省の幹部らは「仮に参加する場合は」と留保をつけたうえで、コメなどの重要品目に配慮しつつ「すべての品目を交渉の対象にする」との政府の基本方針を説明したそうです。アメリカには何でも説明するのに、日本の国民に対してはどのような態度を政府はとっているのでしょうか。

2月7日に政府担当者によるTPPの地方説明会が高知を皮切りに実施されました。2時間の説明会で質疑は15分で、質問者も3人に限られ、政府の一方的な説明だったようです。2月8日の埼玉での説明会は非公開で行われました。前号で倉本理事長が「TPPは食料供給、医療、金融、労働など日本経済全体に深刻な打撃を及ぼす危険が

あり」と指摘していますが、国民の議論をしないで形だけを整えたということでTPP交渉を進める政府のやり方は、許されません。国会論戦の中でも新たな事実が明らかになっています。それは、TPPに加盟するニュージーランド政府（外務貿易省）は「全参加国が交渉文案、各政府の提案、それに付随する説明資料、交渉内容にかかわるメールなどについては、秘密あつかいにする」、しかもTPP協定の発効後4年間、あるいは発効にいたらなくても最後の交渉会議から4年間は秘密あつかいにする予定という文書を公式に発表していることです。

これを暴露したのは日本共産党の志位和夫衆院議員（党委員長）。野田首相は事実を認めましたが、日本の国の将来を左右する重大なTPP問題の本質を多くの人に知らせていかなければという思いを強くしています。（西村）

